

藤岡に学びの多様化学校

不登校対応 県内初、来春開校へ

旧日野小校舎に小・中学校



学びの多様化学校の小学校と中学校が開設される旧日野小の校舎

不登校の児童生徒に配慮し教育課程を柔軟に編成する「学びの多様化学校」**「ズーム」**について、藤岡市が来春4月、旧日野小（同市金井）の校舎に開校することが24日、分かった。子どもの特性に合わせて時間割を特別に組める公立学校で、自然豊かな同市日野地区の特色を反映させた体験学習を充実させる。設置されれば県内で初めて。

国から本年度中に指定を受けられるように準備している。旧日野小校舎に学びの多様化学校の小学校と中学校を置く。名称は今後決める。

校舎は2015年に大規模改修され、今年3月まで使われていて、大がかりな工事は必要ない見込み。在

校生が安心して過ごせるよう、既存の図書室を改装してプレイルームを開設。ソファやハンモック、カードゲームなどを設置する。

授業は地域の特性を生かし、住民の知恵を借りた畑や川での探究的な学びを实践する。義務教育で習得する基礎学力を定着させ



るため、学び直しにも力を入れる。起立性調節障害など朝起きるのが難しい症状にも対応できるよう始業時間を遅らせる配慮もできる。

受け入れる児童生徒は市内在住者で60人弱を想定。小学生は1、2年が各3人程度、3～6年が各5人程度、中学生は各学年10人程度までとする。市内遠方でも通えるようにスクールバ

スを運行する。不登校に悩む保護者を対象に、夏こ

ろから説明会を始める。

教職員は通常の小中学校

からの人事異動で配置す

る。人事交流で学びの多様

化学校での経験を他校でも

生かし、児童生徒の個性を

ズーム

学びの多様化学校 2005年に文科相の指定で設置が可能となり「不登校特例校」と呼ばれていたが、23年から「学びの多様化学校」とした。

義務教育は国が全国一律で授業時間数を定めているが、子どもの体調や意欲に合わせた時間割が認められる。地元の小中学校に在籍して通うフリースクールとは異なり、転校の扱い。卒業すると、通常の小中学校卒業と同等と認められる。

文部科学省によると、全国で34都道府県に84校が設置されている。政令指定都市と各都道府県に1校以上を開校し、将来的に全国300校を目指す。

生かす教育の推進につなげる。

市教委によると、昨年度に病気などを除き30日以上欠席した小学生は41人、中学生は126人と過去5年

で2倍となった。岸正博教育長は「義務教育の中で学びを途切れさせないことが大事だ。多様性を尊重する時代に、その子に合った教育課程をつくり、その子の

得意なことを伸ばせるようにしたい」と話す。

（関坂典生）

2026年6月25日付上毛新聞